

# 校内研究の研究主題

## (1) 研究主題

**すすんで考え 学び合う子を育む**  
～友達とのかかわりを通して 思考を深める授業づくり（国語）～

## (2) 主題設定の理由

新学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）では、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童に、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことが明示されており、本校もそれに向けて 2 年間全職員で研究を積み上げてきた。一昨年度、学習に対して困難さを抱え、落ち着かない雰囲気の中で学校生活を送っていた本校の多くの児童に対し、落ち着いて授業に臨めるようにするため、「書くこと」を中心に授業力向上を重視し、研究を始めた。昨年度からは「書くこと」に加え、ユニバーサルデザインの視点から「学習活動のルーチン化」を推進し、「主体的に取り組み、考え合う子の育成」を目指してきた。「学習活動のルーチン化」により、学習への構えができ、スムーズに学習に集中することができ、意欲的に取り組む姿が見られた。また、目的や条件を理解し、理由を明確にして「書くこと」により、自分の考えを理由や根拠を示しながら文に書ける児童が増え、書くことに抵抗感が少なくなり、文量が増えた。それは、学校全体で積極的に、多様な書く場面を設定したり、適切で有効な書く時間の保証をしたりしてきたからである。



授業研究として、重点①「主体的・対話的で深い学びを支える学習活動のルーチン化」、重点②「目的や条件を理解し、理由を明確にして書く」に取り組んできたが、主に下記のような具体的な課題が出された。

### 重点①「主体的・対話的で深い学びを支える学習活動のルーチン化」

児童の考えや思考を深めるためのルーチン活動が必要である。

### 重点②「目的や条件を理解し、理由を明確にして書く」

「書くこと」の個人差があり、個に応じた量の確保と質の向上が必要である。

そこで、今年度は「学習活動のルーチン化」と「書くこと」の 2 点を学びの土台として、より児童が互いに学び合いながら高まっていけるように、言語能力育成の要である国語科に焦点を絞り、研究主題を「進んで考え 学び合う子を育む」とし、そのために副題として「友達とのかかわりを通して 思考を深める授業づくり」とした。

この主題のもと、授業実践を進めていくことで、学校教育目標の「すすんで学び、心豊かでたくましい児童の育成—みんな笑顔の学校—」の具現化に努めていくことができると考える。

### (3) 研究の重点

蝶屋小学校の授業では、次の4つのポイントを意識して実践研究を積み重ねていく。

- 1 既習との違いに気づかせて、考えたくなる課題をつくる。
- 2 全員に根拠や理由を明確にして考えをもたせる。
- 3 根拠を指し示しながら理由を説明させる。
- 4 課題に正対したまとめを書く。

#### ①一人一人が考えをもつための手立て

本校の児童の中には、自分の考えがもてず（もっても自信がない）、学び合いに参加できない児童もいる。まず、授業では、全員に考えを持たせるということを意識してほしい。そのためにはどんな手立てを打てばよいか授業者が考え、全職員で共有化を図っていく。

#### ②思考が深まる交流にするための手立て

全員に考えを持たせることができたなら、次は思考を深めるような交流(学び合い)を実現させる。ここでは、児童一人一人が、自分の考えを根拠や理由を明確にして話すことが求められる。そのためにも、日々の実践で主張(意見)、根拠、理由を意識した話し方(話型)ができるように丁寧に取り組んでいく。また、ペア活動やグループ活動など、交流の仕方を工夫したり、児童の思考の広がりや変容、確信といった深まりが見られる発問を工夫したりするなどを授業者が考え、全職員で共有化を図っていく。

このような日々の実践の積み重ねで、蝶屋小学校の児童を育成し、学校全体の学力向上と規範意識を高め、「みんな笑顔の学校」の実現を目指していく。

### (4) 具体的な取組

#### ①日々の授業実践・タイムリーな授業改善

「重点1 一人一人が考えをもつための手立て」

「重点2 思考が深まる交流にするための手立て」

研究授業に関わらず日々の授業実践において自由に学び合える環境を全職員でつくっていく。

日々の授業について、児童の実態を基にした授業改善、教材・教具の開発、学年の壁を越えたフリーの授業参観、職員室での情報交換など、若手もベテランも関係なく、いつでもどこでも学び合える環境を大切に、全職員で授業力向上や授業改善を行っていく。また、計画を重視し、単元、月間、年間を通した見通しのある実践研究を進めていきたい。

#### ②学びを支える学習基盤づくり

友達との関わりの中で思考を深めていくために必要な、主体的に学びに向かう態度や、自ら考えを整理し表現するといった児童一人一人の力を授業はもちろん、それ以外の場でも習熟を図る。そのために、次の5つに取り組む。

- |            |              |
|------------|--------------|
| ア 学習の約束の定着 | イ 朝学習の充実     |
| ウ 家庭学習の習慣化 | エ 読書活動の促進・充実 |
| オ 学習環境の整備  |              |

ア 学習の約束の定着

- ・ノートの書き方
- ・学習用具の約束

イ 朝学習の充実

以下の4つを学年に応じて柔軟に設定する。

- ・児童の実態に応じたドリル、プリント類の活用
- ・発達段階に応じた短作文・視写
- ・朝読書、読み聞かせなどの読書活動（月曜日）
- ・活用問題

(例)

月	火	水	木	金
読書 落ち着いた スタート	国語・算数 実態に応じた ドリル・プリント	短作文 発達段階に 応じた量と質	国語・算数 実態に応じた ドリル・プリント	活用問題 学習状況調査 など

ウ 家庭学習の習慣化

- ・「家庭学習の手引き」の作成（各学年の目標時間・約束・内容の設定）
- ・課題の内容の吟味と共通理解（基礎基本の学習・自主学习）
- ・宿題忘れ「0」の取組

エ 読書活動の促進・充実

- ・年間の目標読書数（各学年の設定）
- ・週末読書や家庭読書の日の設定（毎月23日：読書カード活用）
- ・全校放送による定期的な図書貸出の呼びかけ
- ・授業と関連した並行読書の実施

オ 教室の学習環境の整備

- ・ユニバーサルデザインを意識した教室設計
- ・学習の約束、言葉の宝箱等の掲示・活用
- ・その他板書に用いる学習プレートの活用

③確かな学力の定着に向けた授業づくり

【学び合って分かる授業 蝶屋モデル】

児童一人一人の力と集団を育てていくことで主体的・対話的で深い学びのある授業の流れが実現していくと考えている。そこで、アクティブ・ラーニングの視点から、45分授業デザイン（学び合って分かる授業 蝶屋モデル）の共通実践を推進していく。このような授業づくりをめざすことで、よりよい解決に向かうための主体的・対話的で深い学びの過程を実現していく。